

2019 年度

事業報告

自 2019 年 4 月 1 日

至 2020 年 3 月 31 日

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)

静岡県磐田市新貝 2 5 0 0 番地

目 次

【事業報告】

○事業の概況	-----	2
○事業別の状況		
<公1> スポーツチャレンジ助成事業	-----	3
I. スポーツチャレンジ研究助成・体験助成	-----	3
II. 助成事業の一環としてのフォローアップ活動	-----	5
<公2> スポーツチャレンジ体験事業	-----	7
I. ヨットスクール・競技会の開催・運営	-----	7
1. ヨットスクールの運営		
2. 競技会の開催		
II. 水辺・自然体験・スポーツ体験等の促進を目的とした教材の提供、体験会等の開催		10
1. 教材の提供		
2. 体験会等の開催		
1) タグラグビー体験会の開催		
2) 全国児童 水辺の風景画コンテストの開催		
3) その他の体験会等の開催		
<公3> スポーツチャレンジ啓発事業	-----	14
I. 表彰（スポーツチャレンジ賞）	-----	14
II. 調査研究、シンポジウム等の開催	-----	15
III. その他情報発信	-----	20
【事務報告】		
I. 理事会、評議員会	-----	21

【事業報告】

○事業の概況

皆様もご承知のとおり、「新型コロナウイルス」は、今年に入り世界各地で猛威を振るい、その感染拡大により社会経済、国民生活も瀕死の様相を呈しており、今なお収束の目途が立っておりません。日本政府もこれに対応すべく緊急事態宣言を全都道府県対象に拡大し、爆発的感染を回避すべく対策・支援や、地域行政・企業活動での諸規制、日常生活における行動自粛などの要請が継続しています。

スポーツ・運動の関連においても東京 2020 オリンピック・パラリンピックが1年延期となる中、多くの競技会等の中止に加え、選手の日常の練習機会も激減し、また、子どもたちの日常においても運動機会の減少により、今後の子どもたちの健全な成長への影響が懸念され、政府、地域行政、企業、国民が連携し、一刻も早い封じ込めが切望されます。

こうした社会情勢を受け、当財団も3月開催を予定していた第13回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング、第28回セーリング・チャレンジカップ、4月開催予定のスポーツチャレンジ賞表彰式は、参加者の安全を最優先して中止としたほか、ジュニアヨットスクール葉山をはじめ、子どもたちを対象とした体験事業なども大きく影響を受けています。

さて、2019年度は、当財団が公益法人第1号認定（2009年3月）を受けてから11年目として、新たな10年への一歩を踏み出した年でした。設立（2006年）以来、助成事業では現在までに対象者が延400名を超え、また、認定当時（第3期）27歳だったアスリートの平均年齢は第13期には18歳に、研究者も38歳から30歳となり、将来を担う若きチャレンジャーへの支援を鮮明にしてきました。一方、子どもたちにさまざまな体験機会を提供する事業では、当時4種目だったメニューも現在7種目に広がり、社会啓発を目的とするスポーツチャレンジ賞で23の個人・団体を表彰。調査研究では障害者スポーツをはじめ報告書11本を発行と共にシンポジウムを開催するなど、多くの関係者のご協力の下、事業の「質」や「社会的価値」向上への挑戦を通して、微力ながら公益の一端を果たすことができたのではないかと考えています。

2019年度個別事業も、助成事業では審査委員の協力を得て、フォローアップとしてアスリートや研究者29名の活動を支援するとともに、新たに14期生となる若く優秀なチャレンジャー35名を選抜してきました。また、体験事業では、地域を巻き込む活動、共感の輪を広げる方針の下、自然・水辺・スポーツ体験の機会提供の在り方研究も兼ね、2年目となる水辺活動団体との連携による「親子で学ぶ水辺の安全講習会」を浜名湖で開催。調査研究の一環として障害者スポーツ（ボッチャ）の体験を通じてユニバーサル社会への理解を深めてもらう観点から、関係団体と連携して「ユニ★スポ（ユニバーサルスポーツ）体験会」を県下15の小中学校で開催し、約1,200名が参加した活動になるなど、社会との接点で新たな広がりを見た年度でした。

2020年度は、中期事業方針「アクティブ 5（ファイブ）」4年目の事業年度にあたります。前述の影響を受け2019年度に中止した事業についての当年度での必要な対応を行うとともに、全体基調として各事業の目的・規模と適正な資源配分の在り方や効率的な事業運営にも努めながら、「ヤマハらしさ」「オリジナリティー」を活かしたアクティブな活動を追求し、障害のあるなしにかかわらず、誰もがスポーツに親しみ、チャレンジと活力に満ちた社会づくりに向けて、微力ながら貢献していく所存です。関係の皆様には引き続きご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

○事業別の状況

<公1> スポーツチャレンジ助成事業

本事業では世界に羽ばたく逞しい人材の育成をめざし、スポーツ医・科学、スポーツ文化など、スポーツに関連する幅広い分野から、スポーツの普及・振興や競技水準の向上につながる学術的価値の高い学問・研究活動に対し助成（研究助成）するとともに、スポーツを通して夢・目標の実現に向かってチャレンジするアスリート、指導者、審判、ジャーナリストなどの分野から、高い志、明確な目的・目標、そして具体的プロセスを持ったチャレンジスピリット、フロンティアスピリットあふれる体験活動に対して助成（体験助成）を実施しました。

I. スポーツチャレンジ体験助成・スポーツチャレンジ研究助成

1. 2019年度（第13期）の助成概要

■ 2019年度助成事業の助成額と件数

分野	2019年度（第13期）	参考値：2018年度（第12期）
体験助成	15件（15,929,838円）	11件（11,650,380円）
研究助成	14件（12,750,000円）	14件（13,893,540円）
合計	29件（28,679,838円）	25件（25,543,920円）

2. 2020年度（第14期）助成対象者の選考

■ 募集概要

募集期間	2019年9月1日（日）～10月31日（木）			
告知方法	・ニューズリリース及び、関係大学、競技団体等への案内 ・当財団ホームページにて応募要項を掲載			
助成分野・区分	応募資格	助成金額／件	助成件数	
体験助成	アドバンスド	世界選手権など国際レベルでの実績を有する、中学3年生以上（応募時）の個人および、これによって構成されるグループ・団体	上限150万円	10件程度
	ベーシック	世界選手権など国際レベルを目指す、中学3年生以上（応募時）の個人および、これによって構成されるグループ・団体	上限100万円	
	ジュニア	ジュニア世代の国際大会での実績を有する、中学1年生以上（応募時）の個人および、これによって構成されるグループ・団体	上限50万円	
研究助成	基本	研究機関等で研究職として活動に従事する、満40歳未満（応募時）の個人および、これによって構成されるグループ・団体。国籍不問。	上限120万円	10件程度
	奨励	大学院博士後期課程に在籍中または学位未修得者で、満30歳未満（応募時）の個人および、これによって構成されるグループ・団体。国籍不問。	上限60万円	5件程度

(審査委員会の開催)

■第1回審査委員会（書類選考）

審査分野	日程	会場	審査委員
体験助成	2019年12月4日（水）	都内御茶ノ水 ソラシティカンファレンスセンター	8名
研究助成	2019年12月5日（木）		6名

■第2回審査委員会（面接選考）

審査分野	日程	会場	審査委員
体験助成	2020年1月16日（木）	都内御茶ノ水 ソラシティカンファレンスセンター	7名
研究助成	2020年1月17日（金）		6名

■応募状況および採択の結果（チャレンジャーの決定）

分野	2020年度（第14期）			2019年度（第13期）		
	区分	応募件数	採択件数	区分	応募件数	採択件数
体験助成	アドバンスド	25	4	アドバンスド	20	5
	ベーシック	23	7	ベーシック	16	7
	ジュニア	7	6	ジュニア	4	3
	（計）	55	17	（計）	40	15
研究助成	基本	30	9	基本	23	8
	奨励	20	9	奨励	30	6
	（計）	50	18	（計）	53	14
	（合計）	105	35	（合計）	93	29

※ 別紙掲載 I. 第13・14期 助成対象者

■助成金採択実績

分野	2020年度（第14期）	2019年度（第13期）
体験助成	17件（15,961,900円）	15件（15,929,838円）
研究助成	18件（14,340,743円）	14件（12,750,000円）
助成額合計	35件（30,302,643円）	29件（28,679,838円）

3. 助成金贈呈式

助成金贈呈式は、例年スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの中で開催していましたが、今年度第13回は、スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングを新型コロナウイルスの感染防止のため延期としたため開催することができませんでした。今後の社会的情勢を確認しつつ、時期・規模・方法を検討の上、2020年度において「激励等の機会」として実施する方向で進めていきます。

II. 助成事業の一環としてのフォローアップ活動

チャレンジの成果と同様に、そこに至るプロセスを大切にしている当財団の助成制度では、助成対象者に対して、P D C A（Plan Do Check Action）を基軸に、活動の振り返りや、異分野交流を通じた相互刺激や気づきの機会を提供するなど、フォローアップのプログラムを実施しています。

1. 四半期活動報告書の提出

助成開始時に提出したチャレンジ年間計画に対し、四半期ごとの進捗状況を、C N S（チャレンジャーズ・ネットワーク・システム）を介して報告させ、審査委員より一人一人にアドバイスをを行いました。

2. 中間報告会の開催

中間報告会では、チャレンジャーから上半期の活動経過を報告し、チャレンジャー相互や審査委員も含めた活発な質疑応答がなされました。第1回報告会后には、江橋よしのり氏（執筆家・スポーツコメンテーター）を講師に迎え、『人々は「応援する理由」を求めている』をテーマに座談会を開催。第3回では高樹ミナ氏（スポーツライター・コメンテーター）を講師に迎え、『「伝える」を武器にする』をテーマに座談会を開催しました。

■ 2019 年度中間報告会

日 程		会 場	チャレンジャー	審査委員
第1回	9月20日（金）	御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター	7名	6名
第2回	9月21日（土）		5名	4名
第3回	10月4日（金）		7名	11名
第4回	10月5日（土）		10名	10名

3. 成果報告会および修了式について

成果報告会及び修了式は、例年スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの中で開催していましたが、今年度第13回は、スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングを新型コロナウイルスの感染防止のため延期としたため開催することができませんでした。今後の社会的情勢を確認しつつ、時期・規模・方法を検討の上、2020年度において「激励等の機会」として実施する方向で進めていきます。

（参考）スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングは、毎年、年度末の時期に新旧チャレンジャーと審査委員が一同に会して1年間のチャレンジ成果や課題を確認するとともに、異分野交流を通じて多様な価値観に触れ、一人ひとりがスポーツについて「語り」「学び」「考える」機会を提供することを目的として開催している行事です。

4. スポーツチャレンジ助成表彰

現在または過去に本助成制度を受け、成果報告会等で報告されたチャレンジャーの中から、優れた成果を上げ、スポーツ振興に貢献されたチャレンジに対し、審査委員会での審議を経て、スポーツチャレンジ助成「特別賞」、「優秀賞」をスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの中で授与しています。

- ・ 特別賞 助成対象者が世界の舞台で、世界に伍する成果を発揮し、スポーツ振興およびスポーツレベルの向上に、大いに貢献したと認められた者に対して表彰する。
- ・ 優秀賞 助成特別賞に準ずる成果及び、貢献が認められた者を表彰する。
- ・ 激励賞 当該年度においてオリンピック、パラリンピック、デフリンピック等の国際的なスポーツ総合競技大会等に日本を代表して出場する者を表彰する。

※今年度は、上記行事を延期したため実施できませんでしたので、2020年度に改めて対応を検討していきます。

5. 情報公開

スポーツチャレンジ助成対象者のチャレンジの実像や、当財団のフォローアップ活動の様子を社会に発信することを通して、スポーツにかかわる人たちの意識向上を促すとともに、スポーツの持つ価値や有用性を社会に訴求していくことを目的に、当財団ホームページを通じてさまざまな情報を広く社会に発信しています。

上記に加え、当財団事業に協力戴く、事業関係者との情報共有を促進するため、フェイスブックや情報誌「YMFS通信」の情報内容を充実させ、発信頻度を高めるなどの活動を行ってきました。

<公2> スポーツチャレンジ体験事業

社会環境や家庭環境の変化により、子どもたちの体力・運動能力の低下や、水辺や自然の中での体験機会が減少していると言われる中で、次代の人材育成の基礎となる、心身ともに健全な子どもたちの育成をめざし、スポーツや自然がより身近なものとなるさまざまな運動機会や自然・水辺体験機会の創出をめざしています。本事業では、「子どもたちのスポーツ現場のより近くに」を大切な視点に置いて、私たちの持つ事業リソースを活かし得る分野で各種体験機会を提供しています。

I. ヨットスクール・競技会の開催・運営

1. ヨットスクールの運営

心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を目的に、小学生から高校生を対象として、通年型（4月から翌年3月）のヨットスクールを、神奈川県葉山町葉山マリーナを拠点に運営しています。

世代や個々のセーリングの技術レベルに合わせた独自のクラス分けとこれに沿ったカリキュラムにより、原則、月2回から3回の通常講習を行なっています。

2019年度は34名のスクール生を対象に、セーリング指導、強化練習に加え、水辺活動や安全対策の体験、ボランティア活動など、より総合的な視点でプログラムを実施してきました。

加えて近年の取組みとして、逞しい心や競う力も養うことを目的に、葉山スクール周辺で開催される対外レースに積極的に参加してきました。

■スクールの指導理念 「自主・自律・想像（創造）」

セーリングスポーツと自然体験を通して、子どもたちを逞しく

■指導方針

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">① 年度初めの段階で、1年間の目標を設定しPDCAに基づく指導② セーリングに関する適切な知識、経験、技能を備えた指導者による適切な指導③ 逞しい心や競う力を養う目的から、葉山スクール周辺で開催される対外レースに積極的に参加④ 夏季には集中的に取り組む強化練習の実施⑤ 「自然・水辺体験学習」を取り入れた、より総合的なプログラムを通じて、海、水辺、海事に関する教育⑥ スクールの指導理念や活動状況を共有し、理解協力を促進する目的で保護者会を年2回開催 |
|--|

■スクールの通常活動

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">① ベーシッククラス（入会初年度）24回／年間② マスタークラス（小学校4・5年生）24回／年間③ エキスパートクラス（小学校5・6年生）36回／年間④ クラブ（中学生以上）48回／年間⑤ レーシングクラス（中学生以上）48回／年間 |
|--|

※3月15日（日）に開催予定でした2019年度修了式及び保護者会は、新型コロナウイルスの感染防止のため中止しました。

■通常講習以外の主な活動

実施内容		日程	場所
<2019年>			
1	2019 ノルウエーフレンドシップヨットレース 6名出場	4月20～21日	江ノ島
2	レーザ-4.7級スプリングレガッタ 2名出場	4月27～29日	三重県津ヨットハーバー
3	JOCジュニアオリンピックカップ2019 1名出場	5月3～5日	佐賀県唐津市ヨットハーバー
4	強化練習会 延べ41名参加	4月30～5月4日	葉山マリーナ
5	インターナショナルフレンドシップレガッタ 6名出場	5月18日	葉山マリーナ
6	藤沢チャンピオンレース 2名出場	6月2日	江ノ島
7	日本ジュニアヨットクラブ連盟会長表彰式 箱守出席	6月8日	都内会場
8	ジュンレガッタ 8名出場	6月15～16日	江ノ島
9	レーザ-級関東選手権 4名出場	6月15～16日	江の島
10	JSAFシーマンシップアカデミー 10名参加	6月22～23日	江の島
11	第10回水辺の安全講習会 (協力)日本ライフセービング協会 24名参加	7月21日	葉山森戸海岸
12	強化練習会 22名参加	7月29～31日	葉山マリーナ
13	国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 6名出場	8月2～4日	東京若洲ヨット訓練所
14	東日本オプティミスト級セーリング選手権大会 6名出場	8月16～18日	静岡県立三ヶ日青年の家
15	東京2020テストイベント&セーリングワールドカップ シリーズ江の島大会の運営サポート	8月15～22日	江の島
16	前期保護者会の開催 21名参加	9月22日	葉山マリーナ
17	小沢吉太郎記念少年少女ヨットレース大会 11名出場	9月22～23日	江の島
18	第74回国民体育大会茨城 1名出場	9月29～10月2日	茨城県霞ヶ浦セーリング会場
19	夢の島レガッタ 3名出場	10月27日	東京若洲ヨット訓練所
20	2019年レーザ-級全日本選手権 4名出場	11月1～4日	静岡県浜名湖
21	全日本オプティミスト級選手権 4名出場	11月21～24日	鹿児島市平川ヨットハーバー
22	第16回ジュニア・ユースクリスマスカップ 12名参加	12月14～15日	江の島
23	レーザ-クリニック 3名参加	12月21～22日	江の島
<2020年>			
24	ミッドウインター合同練習 4名参加	1月18日	江の島
25	ミッドウインターレガッタ 9名出場	1月19日	江の島
26	JODAナショナルチーム最終選考会 2名出場	2月21～25日	海陽ヨットハーバー
27	2019年度修了式、保護者会 開催中止	3月15日	葉山マリーナ
28	第28回YMFSセーリング・チャレンジカップ 開催中止	3月20～22日	静岡県立三ヶ日青年の家

2. 競技会の開催（セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖）

本事業は、心身ともに健全な子どもたちの育成を目的に、全国のジュニア・ユースセーラーが一堂に会し、日頃の練習成果の確認や、次年度の目標確認の場として、また、選手・指導者同士の交流や、全体的レベルアップと技術向上に資するため、選手及び指導者を対象として、元五輪日本代表等による技術指導、レースにおける戦略、戦術に関する勉強会を行うなど、「学べるレガッタ」を特徴として開催しています。

※今年度は第 28 回として以下の大会開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため大会を中止といたしました。

■第 28 回 YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖の概要（当初予定）

開催日時	2020 年 3 月 20 日（金）～22 日（日）（3 日間）
開催場所	静岡県立三ヶ日青年の家
共同主催	（公財）ヤマハ発動機スポーツ振興財団、NPO 法人静岡県セーリング連盟
公認団体	（公財）日本セーリング連盟（承認番号 2019-4）
運営協力	NPO 法人静岡県セーリング連盟
助 成	<p>（独法）日本スポーツ振興センター「スポーツ振興くじ助成金」 JSC 助成金交付決定額 88,000 円（プログラム製作費） 当該助成金は、指導講師、医師、審判員・スタッフ等への謝金、大会役員への宿泊費・交通費、運営艇等の借用料・運送料等に使用予定です。</p> 
協 賛	三井住友海上火災保険（株）、ヤマハ（株）、（株）ワイズギア、（株）舵社、（株）ヤマハトラベルサービス、（株）ノースセール・ジャパン、パフォーマンスセイルクラフトジャパン（株）、（有）SAIL FAST
後 援	スポーツ庁、（公財）日本スポーツ協会、静岡県、静岡県教育委員会、（公財）静岡県体育協会、浜松市、浜松市教育委員会、（公財）浜松市体育協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、静岡朝日テレビ、NHK 静岡放送局、静岡第一テレビ、テレビ静岡、K-mix、FM Haro!、日本オブティミストディング協会、日本レーザークラス協会、日本 420 協会
協 力	静岡県立三ヶ日青年の家、ヨットリーダーズクラブ、南平自治会
競技種目	OP 級、ミニホッパー級、レーザー4.7 級、レーザーラジアル級、420 級 ※レーザー 4.7 級、レーザーラジアル級は、世界選手権国内選考会を兼ねる。 ※420 級は、東日本選手権を兼ねる。

II. 水辺・自然体験・スポーツ体験等の促進を目的とした教材の提供、体験会等の開催

1. 教材の提供

本事業は、スポーツ教材の活用を通じて、子どもたちが楽しく体を動かすきっかけとなり、スポーツ好きな子どもの増加、体力・運動能力の向上、心身の健全な育成の一助となることを目的に、全国の幼稚園、小学校、ジュニアスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブなどを対象に実施しています。また、教材提供先には、活用報告書を提出戴き、模範的な活用事例は、当財団ホームページ等に掲載して社会啓発に努めています。

■ 2019 年度「スポーツ教材の提供」の概要

募集期間	2019 年 4 月 12 日（金）～6 月 7 日（金）
使用対象	幼児から小学生
提供対象	「子どもたちがスポーツを楽しみ、好きになる取組み」を計画している団体（保育園、幼稚園、認定こども園、小学校、特別支援学校、児童養護施設、児童クラブ、教育委員会、体育協会、スポーツ少年団・クラブ・スクールなどスポーツに取り組む団体
提供教材	① サッカーボール ② タグラグビーセット
募集方法	当財団ホームページおよび教育委員会など通じて告知
選考方法	書類審査の上、第三者による抽選により決定
結果通知	当財団ホームページに抽選結果掲載後、提供先団体へメールにて通知
提供方法	7 月上旬に提供団体へ発送

■ 申請状況および抽選結果

申請数	527 団体（前年度 675 団体）
抽選会	6 月 13 日（木）（公財）日本スポーツ協会 副会長 泉 正文氏による抽選
抽選結果	120 校・団体（前年度 120 校・団体）

※ 別紙掲載 II. 2019 年度 スポーツ教材の提供先団体

2. 体験会等の開催

1) タグラグビー体験会の開催：「はじめてのタグラグビー教室の開催」

ヤマハ発動機（株）の協力を得て、直接指導可能な当財団所在地の周辺地域（静岡県西部地域の磐田市、袋井市・掛川市・周智郡森町）をモデルエリアとして、当地区の小学校を対象に募集を行い、申請のあった 4 校（計 5 回）に実施しました。その結果、児童 496 名と教員が参加した活動になりました。

■ 2019 年度 実施校

実施した小学校		日 程	児童対象
1	掛川市立横須賀小学校	6 月 28 日（金）	136 名（5 年生 71 名、6 年生 65 名）
2	磐田市立磐田西小学校	7 月 5 日（金）	117 名（4 年生 87 名、6 年生 30 名）
3		7 月 12 日（金）	58 名（6 年生）
4	掛川市立第一小学校	9 月 6 日（金）	95 名（5 年生）
5	磐田市立向笠小学校	9 月 18 日（水）	90 名（3・4 年 41 名、5・6 年 49 名）
合 計 小学校 4 校		5 回	496 名

2) 全国児童 水辺の風景画コンテストの開催

本事業は、子どもたちの自然体験や水辺体験の促進が社会的な課題となっている中で、小学生以下の児童・幼児を対象に、海や川などの水辺に出かけ、そこで得たさまざまな体験をテーマに絵を描くことによって、水辺への興味・関心を高め、また、表現力や感性を育むことを目的として絵画コンテストを開催しています。

このコンテストは、水辺の絵を描くことを1つのきっかけとして、実際に海や川など水辺や自然の中での実体験を促す目的から体験事業に位置付けて運営しています。

■ 第31回全国児童 水辺の風景画コンテストの概要

募集期間	2019年6月3日(月)～9月24日(火)
対 象	小学生および幼児
募集方法	当財団ホームページおよび募集リーフレットなどにて告知
協 賛	Love the Earth 実行委員会、三井住友海上火災保険(株)、(株)舵社、マルマン(株)、(株)ワズギア
特別協賛	ヤマハ発動機(株)
後 援	文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、(一社)日本マリン事業協会、(公社)日本ユネスコ協会連盟、(NPO)ジャパングームフィッシュ協会、(一社)日本マリーナ・ビーチ協会、(独法)国立青少年教育振興機構、(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会
審査日程	予選会 : 10月11,13日(金・日) 本選会 : 10月29日(火)
受賞者発表	11月6日(水)
表 彰	最優秀賞 : 文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞 特別賞 : 審査員長賞、日本マリン事業協会会長賞、日本ユネスコ協会連盟賞、日本マリーナ・ビーチ協会会長賞、ジャパングームフィッシュ協会会長賞、国立青少年教育振興機構理事長賞、日本海洋レジャー安全・振興協会会長賞、ヤマハ発動機賞、Y M F S特別賞 優秀賞 : 金・銀・銅賞(幼児、小学校低学年・高学年各部門) 入 選 : 698点(入賞作品43点、秀作257点、佳作398点)
応募状況	作品数 : 10,308点(前年度9,928点) 団体数 : 701団体(前年度662団体)

■ 審査会について

審査会	内 容	日 程	会 場	審査員
予選会	専門家による審査を行い、入選作品決定	10月11日(金) 10月13日(日)	ヤマハ発動機株式会社 コミュニケーションプラザ	2名
本選会	専門家、後援省庁および団体による審査で入賞作品決定	10月29日(火)	国立オリンピック記念青少年総合センター	18名

■各大臣賞表彰式

賞名	日程	開催会場	受賞者／贈呈者
農林水産大臣賞	12月2日(月)	東京都足立区立高野小学校	受賞者：深津 心南さん(6年生) 贈呈者：同校校長 武智勇喜 氏
文部科学大臣賞	12月9日(月)	広島県中央こども園	受賞者：小坂優芽さん(年長) 贈呈者：竹原市教育長高田英弘 氏
環境大臣賞	12月13日(金)	愛知県半田市立成岩小学校	受賞者：守田岳さん(5年生) 贈呈者：YMFS 小島事務局長
国土交通大臣賞	12月16日(月)	東京都足立区立栗原北小学校	受賞者：川島雛乃さん(3年) 贈呈者：国土交通省関東地方整備局 東京港湾事務所長 酒井敦史氏

※ 別紙掲載 Ⅲ.第31回全国児童水辺の風景画コンテスト入賞者

■入賞作品紹介

情報公開	当財団ホームページにて掲載
作品展示	「ジャパンインターナショナルポートショー2020」(3月5日～8日。横浜市・パシフィック横浜)にて展示を予定していましたが行事が中止となり展示はできませんでした。
	ヤマハ発動機(株)コミュニケーションプラザ2F(1～2月)にて展示

3) その他の体験会等の開催

近年の社会環境や家庭環境の変化を背景に、子どもたちが自然の中や水辺において、さまざまな活動や体験をする機会が減少していると言われていた中で、身近にこれらを体験する機会を提供することを通じて、心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を支援すべく、当財団がこれまでの事業で培ってきた知見やネットワーク等を有効活用し、当財団所在地周辺の地域を対象に開催しました。

今後、地域社会や子どもたちのニーズや課題などを分析しつつ、持続的な事業としての道筋を考えていきます。

① 親子で学ぶ水辺の体験会

開催日	プログラム	会場	参加者
第1回 7月27日 (土)は天候不 順により中止。	1. 水辺の安全講習(研修室1) ・ライフジャケット装着方法 ・胸骨圧迫 ・AED使用法 2. 水辺の乗り物体験(ヨットハーバー) ・ダブルハルカヌー ・ニッパーボード ・ハドルポジション(HELP姿勢)体験 ・救助船体験	静岡県立 三ヶ日青年 の家	12 家族 26 名
第2回 8月3日(土) 9:30～16:00	<協力> 特定非営利活動法人浜松ライフセービングクラブ 古橋理理事長ほか7名 静岡県立三ヶ日青年の家		

② ダンボールボート制作／体験教室

静岡県立三ヶ日青年の家と連携し、水辺体験活動の一環として船の基本原理を学び、仲間と工作して体験する、ダンボールボート製作、乗船体験イベントをトライアルとして行いました。

今後の本企画への関心やニーズなどを踏まえて継続可否を検討していきます。

開催日	カリキュラム	会場	参加者
9月8～9日 (木・金)	1.船の基本的な原理の理解 2.ダンボールを使った船を工作する 3.出来上がった船を水に浮かべて乗船する 4.材料リサイクルの仕組みを理解し、分別の実践 (講師) 竹原克紀 氏 ヤマハ発動機社員OB (資材) ヤマハ発動機 (株) (視察) 静岡県教育委員会事務局 社会教育課	静岡県立 三ヶ日青年の家	静岡県立青少年施設で開催する自然生活体験活動プログラム 小学校5、6年 中学1年生含め 80名が体験 指導員 31名

<公3> スポーツチャレンジ啓発事業

本事業では、誰もがスポーツに親しみ、チャレンジと活力にあふれる社会の実現をめざし、事業活動の現場から、スポーツの持つ価値や有用性、環境整備など、スポーツ振興に関する情報発信や提言を行います。

具体的には、スポーツ振興に大きく貢献した人物・団体を表彰するスポーツチャレンジ賞。スポーツ振興に関わる社会環境や実態調査を元に、社会に提言活動を担う調査研究プロジェクト。そして当財団各事業に関わるさまざまな情報を社会に発信する活動を行っています。

I. 表彰（スポーツチャレンジ賞）

本事業は、スポーツ振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物・団体を表彰するものです。スポーツに関する技術、指導、研究、普及、ジャーナリズムなど幅広い分野において、輝かしい功績をあげ、且つ、これまで注目を浴びることの少なかった「縁の下の力持ち」的な人物・団体を対象としている点が本賞の特徴となっており、「功労賞」と「奨励賞」の2部門で構成しています。

■本賞の概要

功労賞	内容	長年もしくは過去に行われ、現在のスポーツ振興の礎となるような貢献や、先駆的な実績を誇るチャレンジで、注目を浴びることの少なかった、本来高い評価を得るに相応しい、「縁の下の力持ち」的な存在を表彰します。
	対象者	既に優れた成果をあげ、功をなした人物・団体
奨励賞	内容	短期的もしくは中期的に行われ、その年、極めて高い成果をあげ、今後のスポーツ振興に大きな影響力の発揮が期待されるチャレンジで、注目を浴びることの少なかった本来高い評価を得るに相応しい、「縁の下の力持ち」的な存在を表彰します。
	対象者	その年、高い成果をあげ、今後さらなる成長が期待される人物・団体
後援	(公財) 日本スポーツ協会、(公財) 日本オリンピック委員会 (公財) 日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会	

■第11回 スポーツチャレンジ賞表彰（2018年度からの継続活動）

候補者募集	2018年9月14日（金）～10月31日（水）
選考委員会	第1回 2018年12月6日（木）、7日（金） 第2回 2019年1月17日（木）、18日（金）
表彰式	2019年4月15日（月）都内如水会館
受賞者	【功労賞】《荒井秀樹氏》 ・日本パラリンピックノルディックスキーチーム監督“パラノルディックスキー、ゼロからの挑戦” 推薦者：(公財) 日本障がい者スポーツ協会 【奨励賞】《スピードスケート科学サポートチーム》 “平昌オリンピックのスピードスケートマススタートおよびチームパシュート競技へ向けたレース分析サポート” 推薦者：(公財) 日本スケート連盟
参加者	受賞者、推薦者、応援者、報道機関、選考委員、理事等関係者 合計約60名

情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の様子は当財団ホームページにて公開・掲載 ・受賞者の功績や、知られざる足跡など詳細情報を、当財団ホームページ、スペシャルウェブコンテンツ（特集記事）「BACK STORIES（バック・ストーリーズ）」の中で紹介
------	---

■ 第 12 回 スポーツチャレンジ賞受賞者の選考

候補者募集	2019年9月13日（金）～10月31日（木）	
選考委員会	第1回 2019年12月4日（水）、5日（木） 都内会場 第2回 2020年1月16日（木）、17日（金） 都内会場	
表彰式	2020年4月24日（金） 都内会場（延期）	
受賞者	功労賞	・該当者なし
	奨励賞	<ul style="list-style-type: none"> ・ Scrum Unison（スクラム ユニゾン） 廣瀬俊朗氏他6名 ・ ラグビーワールドカップ日本大会にて世界から集まる選手やファンを「国歌やラグビーアンセム」を歌って“おもてなし”
情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の様子は当財団ホームページにて公開・掲載 ・受賞者の功績や、知られざる足跡など詳細情報を、当財団ホームページ、スペシャルウェブコンテンツ（特集記事）「BACK STORIES（バック・ストーリーズ）」の中で紹介 	

II. 調査研究、シンポジウム等の開催

スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的な課題解決に寄与するため、当財団の特徴を活かし得る分野において調査研究活動を行い、その成果の社会活用を促進する活動を行っています。

8年目となる障害者スポーツ分野では、地域現場（ミクロ的視点）の実態調査として、①先進的な地域活動を展開する岩手県の調査、そして新たに ②障害者スポーツ選手のキャリア調査を実施しました。

また、横断的な障害者スポーツに関わる社会環境（マクロ的視点）調査として、③先進的事例としての大学、④2018年度障害者スポーツ競技団体の実態調査結果に基づきシンポジウム開催し、社会活用の促進。⑤パラスポーツ体験会「チャレンジ・ユニ☆スポ」を開催しました。また、以上の調査内容をまとめ、⑥調査研究報告書を発行しました。

トップスポーツ分野においては、日本トップリーグ連携機構の協力を得て、「トップスポーツを活用した地域活性化」をテーマとした調査活動を展開し、調査報告書を発行しました。

1. 障害者スポーツプロジェクト

■ プロジェクトミーティング開催実績

回	開催年月日	会場	テーマ	出席者
第1回	2019年5月27日（月）	都内会場	2018年度調査計画他	8名
第2回	2019年8月26日（月）	都内会場	各調査の進捗と今後の進め方他	9名

1) 地域現場における実態調査

地域における障害者スポーツの実態調査は、一昨年の静岡県、昨年の福岡県に続き、3年目となる本年度は地域や行政組織の垣根を超えた障害者スポーツ振興への取り組み事例などを確認するため岩手県を対象に調査活動を実施した。

■ 岩手県での調査活動

岩手県障害者スポーツ協会 2 団体への訪問調査（フィールドワーク調査に向けた事前説明）

- ・ 岩手県障害者スポーツ協会（岩手県盛岡市）
- ・ 一関市障がい者スポーツ協会（岩手県一関市）

■ フィールドワーク調査

調査対象	実施日・会場	概要
宮古圏障がい者スポーツ交流会	2019年5月17日（金） 宮古市総合体育館	圏域4地域の障害者関連事業所21団体240名が参加し、3競技、4レクレーションを実施。
盛岡市障がい者卓球教室	2019年5月18日（土） 岩手県ふれあいランド体育館	身体（肢体）、知的、精神各障害者30名が合同練習。競技、レク、リハビリを同時指導。
盛岡市知的障がい者バスケットボール教室	2019年5月19日（日） 岩手県峰南高等支援学校体育館	県内唯一の知的障がい者バスケットボール教室で岩手国体開催を契機に開始。
岩手県障がい者スポーツ大会	2019年6月1日（土） 県営運動公園陸上競技場 他2会場	全国障がい者スポーツ大会茨城への派遣選手選抜を兼ねた県大会。 参加者約1600名
一関地方ふれあいスポーツ大会	2019年6月28日（土） 一関市総合体育館	一関市と平泉町の特別支援施設27所730名が参加。スポーツを通じた仲間との交流が趣旨。第29回となる歴史
卓球バレーを活用した障害者の交流促進とスポーツ推進事業	2019年7月7日（日） 岩手県ふれあいランド体育館	高齢者の健康寿命延伸と障害者スポーツ推進、人的交流を目的県下27団体218名が参加。
岩手・宮城2県にまたがる障害者スポーツ地域交流事業	2019年9月7日（土） 気仙沼市本吉健康福祉センター	ユニバーサルスポーツ、コミュニティー再生スポーツとして卓球バレーに取り組む。両県各地から60名が参加
中山地区卓球バレー交流会 岩手県北部地区	2019年11月16日（土） 一戸町立奥中山地区公民館	岩手県一戸町と周辺地区の障害者支援施設を中心に約50名が参加。障害高齢者のスポーツ機会を提供。

2) 障害者スポーツ選手のキャリア調査

スポーツキャリア面接調査により、環境・支援・制度・時代背景の中でスポーツを実施するようになった経緯を整理し、どのような支援や施策があれば障害者がスポーツを実施することに結びつくのか。障害者がスポーツに参加したキッカケや環境を調査し、障害者スポーツの社会化に与えた影響を明らかにし、社会環境や支援環境の改善に有効策を導くことを目的としている。

実施日	調査人数	調査対象選手の障害種類・競技
2019年8月14日(水)	1名	中途・身体・車いすフェンシング
2019年8月19日(月)	3名	中途・身体・車いすバスケットボール
		先天性・身体・車いす卓球
		先天性・身体・水泳競技
2019年9月9日(月)	2名	中途・身体・水泳競技
		中途・身体・車いすアーチェリー
2020年10月21日(月)	1名	中途・身体・射撃

3) 障害者スポーツの先進的取り組みを行う大学調査

本年度の調査対象は、知的障害者向けのスポーツ指導や教員育成、スペシャルオリンピックへの取り組みを行う金沢星稜大学。教員養成課程において「アダプテッドスポーツ」を活用している大阪体育大学のヒアリング調査を実施しました。

実施日	会場	大学	面談者
2019年8月1日(木)	石川県金沢市 石川県社会福祉会館	金沢星稜大学	同大学人間科学部 井上明浩教授
2019年7月15日(月)	大阪体育大学教育学部	同左	同大学教育学部 植木教授、曾根准教授

4) シンポジウム 2020「障害者スポーツ競技団体の課題と展望」を開催

当財団 2018 年度調査等をもとに、障害者スポーツ競技団体の課題と展望について報告・議論

開催日・会場	2020年2月2日(日) 東京御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
出席者	約60名
次第	・調査報告及び課題報告 ・パネリスト報告 ・パネルディスカッション(東京2020パラ開催決定後の変化、東京2020パラ終了後の展開)
登壇者	・小淵和也：公益財団法人笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 政策ディレクター ・小松真一：NPO 法人日本車いすフェンシング協会 理事長 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 車いすフェンシング競技チーム スポーツマネージャー ・櫻井誠一：一般社団法人日本身体障がい者水泳連盟 常務理事・技術委員長 日本パラリンピック委員会 副委員長 ・杉野正幸：特定非営利活動法人日本アンパティサッカー協会 副理事長 ・中森邦男：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会 参事

5) パラスポーツ（ボッチャ）体験会開催 「チャレンジ・ユニ☆スポ」（トライアル事業）

パラスポーツ「ボッチャ」は、障害者スポーツとして生まれた競技ですが、幅広い年齢層や運動能力、障害の有無にかかわらず参加者誰もが楽しめ交流ができます。スポーツを通じて多様性への理解を深める機会として、学術調査を兼ねて当財団所在の静岡県下の小中学校 15 会場で体験授業「チャレンジ！ユニ★スポ」を開催し、約 1,200 名の児童、教員が楽しく体験しました。

■活動結果

回	日程	学校名	参加者数		
			児童生徒 (うち障害児)	教員	合計
1	9月18日(水)	浜松市立浜名小学校	106(4)	3	109
2	10月24日(木)	浜松市立上島小学校	162(12)	7	169
3	10月25日(金)	掛川市立中小学校	21(0)	1	22
4	10月29日(火)	静岡市立大里東小学校	39(4)	3	42
5	10月31日(木)	磐田市立大藤小学校	33(1)	1	34
6	11月5日(火)	浜松市立双葉小学校	30(6)	4	34
7	11月7日(木)	小山町立成美小学校	60(0)	2	62
8	11月11日(月)	静岡市立南藁科小学校	127(0)	6	133
9	11月13日(水)	磐田市立竜洋西小学校	96(1)	3	99
10	11月14日(木)	小山町立須走小学校	39(3)	3	42
11	11月21日(木)	浜松市立犬居小学校	18(1)	3	21
12	12月2日(月)	菊川市立小笠南小学校	106(3)	3	109
13	12月5日(木)	磐田市立磐田西小学校	87(2)	3	90
14	12月6日(金)	函南町立東中学校	128(1)	8	136
15	12月10日(火)	静岡市立清水袖師小学校	83(5)	4	87
合計			1135(43)	54	1189

6) 調査報告書の発行

■2019年度 障害者スポーツ調査研究報告書概要（全5章）

「2019（令和1）年度障害者スポーツを取巻く社会的環境に関する調査研究」 －地域現場、障害者スポーツ選手キャリア、大学に着目して－
第1章 地域現場における実態調査
第2章 障害者スポーツ選手のキャリア調査
第3章 大学の先進的取り組み調査
第4章 シンポジウム抄録集
第5章 チャレンジ！ユニ★スポ（体験会ケーススタディ）

2. トップスポーツプロジェクト

■プロジェクトミーティング開催実績

回	開催年月日	会場	テーマ	出席者
第1回	2019年 8月 21日 (水)	都内会場	調査方針、目標、調査実施概要	9名
第2回	2019年 9月 27日 (水)		各調査の進捗と今後の進め方他	9名

1) 調査報告

トップスポーツに関する平成30年度（2018年）の調査研究結果をまとめた報告書を当財団ウェブサイトにて公開しました。一般社団法人日本トップリーグ連携機構のご協力の下、同機構に加盟しているバレーボール、ハンドボール、ラグビーなど全13リーグ（一部種目は男女を別カウント）、91のクラブ・チームから得られた地域活動に関する調査結果を報告にまとめホームページにて情報公開しています。

■2019年度 調査研究報告書概要（全7章）

報告書タイトル 「平成30年度トップスポーツ組織の地域振興活動に関する調査」 -トップスポーツによる地域活性化とスポーツ振興を目指して-	
【第1章】 トップスポーツ組織の事業概況まとめ	各組織のプロフィールや事業形態（企業系・独立/プロ系・大学系）、設立年などを紹介。
【第2章】 トップスポーツ組織のホームタウンに関するまとめ	各組織のホームタウン（本拠地）の有無、ホームタウンの捉え方について紹介。
【第3章】 トップスポーツ組織の地域活動の捉え方や課題に関するまとめ	各組織が取組む“地域への支援”、“地域からの支援”などに対する意識や課題認識などを紹介。
【第4章】 トップスポーツ組織の地域における具体的な活動状況まとめ	各組織が取組む様々な地域活動（スクール、学校訪問、社会貢献など）の実施状況を紹介。
【第5章】 トップスポーツ組織が重要視するステークホルダーまとめ	各組織の重視するステークホルダー上位3位までの分析結果を紹介。
【第6章】 トップスポーツ組織のマスコットキャラクター・商標・グッズに関するまとめ	各組織が保有するイメージキャラクターや商標を活用したPR活動状況を紹介。
【第7章】 トップスポーツ組織の地域活動におけるベンチマークまとめ	各組織が地域活動時のベンチマークとするリーグやクラブ・チームを紹介。

Ⅲ. その他情報発信

当財団ホームページでは、スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与することを目的に、広く社会に対して事業活動の情報を発信しています。また、刊行物やリリース発行などでの普及広報活動の充実にも努めています。

情報発信手段	概 要
ホームページ	① 主な掲載内容 ・各事業活動の告知（案内、募集、結果報告など） ・第13期スポーツチャレンジ助成対象者の実像を紹介（チャレンジャーズファイルなど） ・第11回スポーツチャレンジ賞受賞者の人物像を紹介（BACK STORIES） ・ジュニアヨットスクール葉山の活動紹介 ・スポーツ教材の提供の模範的な活用事例の紹介 ・第31回全国児童 水辺の風景画コンテストの実施報告 ・調査研究活動に関する報告書の情報など ② アクセス数 2019年 353,800 ページビュー
ニュースリリース	・スポーツチャレンジ助成 助成対象者募集、対象者決定など計 10 件
Face Book	・スポーツチャレンジ助成事業における助成対象者（OB・OG含む）の活動状況。 ・各事業（行事）の様子などについて事業関係者等を対象として情報共有を促進。
刊行物	・Y M F S通信 毎月配信（配信先 約 700 か所） ・2019 年度年間事業報告書 Yearly Digest 500 部 ・2019 年度障害者スポーツを取り巻く社会的環境に関する調査研究 2,000 部

【事務報告】

I. 理事会、評議員会

■理事会

回	開催日時・会場	議 事
1	2019年5月24日(金) 都内丸の内マイプラザ	<p><決議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1号議案 平成30年度(2018年度)事業報告承認の件 ・第2号議案 平成30年度(2018年度)計算書類等承認の件 ・第3号議案 定時評議員会招集の件 ・第4号議案 評議員候補者推薦の件 ・第5号議案 審査委員選任の件 <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度(2018年度)第3回理事会2月以降の事業活動 ・代表理事及び業務執行理事の業務執行状況の報告他
2	2019年10月23日(水) 都内丸の内マイプラザ	<p><決議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1号議案 特定費用準備資金等取扱規程制定の件 ・第2号議案 事務局規程、経理規程一部改正の件 <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度上半期事業報告、下半期事業活動 ・2019年度中間決算の概要と今後の見通し ・代表理事及び業務執行理事の業務執行状況の報告他
3	2020年2月27日(木) 都内丸の内マイプラザ	<p><決議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1号議案 2020年度事業計画承認の件 ・第2号議案 2020年度収支予算承認の件 ・第3号議案 審査委員会規程改正の件 <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度事業概況及び収支見通し ・代表理事及び業務執行理事の業務執行状況の報告他

■評議員会

回	開催日時・会場	議 事
定時	2019年6月13日(木) 都内丸の内マイプラザ	<p><決議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1号議案 平成30年度(2018年度)計算書類等承認の件 ・第2号議案 理事選任の件 ・第3号議案 業務執行理事(常務理事)選定の件 ・第4号議案 監事選任の件 <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度(2018年度)事業報告 ・平成30年度(2019年度)事業計画報告 ・評議員選定委員会における評議員選任の報告その他